

(様式2)

令和3年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
47	長沢中学校	栗山 八寿子

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
1. 自分を見つめよう 2. 心身を鍛えよう 3. 規律を守り、責任を果たそう 4. 創造的な精神をみがこう	今年度は次の4点を重点として、学校教育目標の達成に向けて全教職員で取り組む。 I 確かな学力が身につく学習活動の推進 II 安全で安心できる学校づくりの推進 III 豊かな心づくりの推進 IV 地域・保護者との連携推進・学習環境の整備	学校経営目標の達成に向けて次の重点目標に取り組む。 I - 1 学習規律の確立 2 教師の授業力向上 3 読書体験の充実 II - 1 支援教育の推進 2 教育相談の充実 3 居場所となる学級・学校づくりの推進 III - 1 キャリア在り方生き方教育の推進 2 共生・共育の推進と充実 3 いじめや暴力をしない思いやりの心の育成 IV - 1 地域・保護者と共に取り組む教育活動の展開 2 教育環境の整備 3 健康・安全教育の推進

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
I 確かな学力が身につく学習活動の推進	1 学習規律の確立	◎学校評価アンケートから、授業に意欲的に取り組み、知識や技能が身に付いていると感じている生徒が多い。 ◎学校評価アンケートから、学校生活に必要なルールやマナーを守って生活している生徒が多い。 ◎GIGA端末の活用が進んでいると感じている生徒が多い。 ●対面での話し合いが困難 ●端末の操作や活用に個人差	・教科部会や学年会で共通のルールや指導の在り方について年度初めに確認する。全教職員で共通指導(授業ガイダンス)→生徒会活動として主体的に改善に取り組ませる。 ・生徒の学ぶ意欲を高める指導と評価の一体化を図る。→研修の充実
	2 教師の授業力の向上	◎学校評価アンケートから、「授業が楽しい」「授業が面白い」と感じている生徒が多い。 ◎GIGA端末の活用等で生徒が主体的に考えさせる授業を行い、話し合ったり意見を発表したりする場面を設定している。 ●研修時間の確保 ●個別のニーズへの対応 ●話し合いの減少	・授業を相互に見合うミニ校内研修を進める。 ・学習指導要領の趣旨を理解し、評価と指導の一体化に向けた取組みを全教員で行う。 ・GIGA端末を活用して生徒主体の考えさせる授業を展開する→全教員の活用スキルの向上
	3 読書体験の充実	◎学校評価アンケートから、GIGA端末の活用が進んでいると感じている生徒が多い。 ◎教員アンケートから、 ◎学校評価アンケートから、教科書以外の本や新聞等を読ませて、学習に生かそうとする教員が多い。 ●図書室の蔵書 ●GIGA端末の目的や使用方法 ●読書体験不足	・図書委員の活動を支援し、生徒のアイディアや働きかけで読書をする生徒を増やす取組みを促進する。 ・本と生徒を結びつける工夫や興味関心を持てる蔵書の充実を図る。 ・GIGA端末の配置の目的や正しい使用方法について、年度初めに全校で確認する。折に触れて確認できる工夫(ルールブックや掲示等)
II 安全で安心できる学校づくりの推進	1 支援教育の推進	◎学校評価アンケートからCOや養護教諭、SGとの連携して、チームで支援できる体制があると考える教員が多い。 ◎学校評価アンケートから個性を大事に、みんな仲が良いと考えている生徒が多い。 ●学習室の担当者間の情報共有 ●特性の理解 ●学習室の目的	・学習室担当者会を行い、情報共有を図る。指導の記録を元に、状況の変化等に適切に対応できるようにする。 ・支援会議の充実を図り、情報共有と適切な支援を迅速に行う。 ・コロナ不安への迅速な対応と人権への配慮→道徳・学活等
	2 教育相談の充実	◎学校評価アンケートから、先生や友達に助けってもらったり助けたりしている生徒が多い。 ◎学校評価アンケートから、困ったとき先生に相談する生徒が増えた。 ◎傾聴して、寄り添う教育相談の実施を心がけている教員が多い。 ●学校評価アンケートから、保護者の相談の満足度が低い。 ●相談できずにいる生徒や保護者への対応 ●相談時間の確保	・いつでも誰でも生徒や保護者の相談を受け、丁寧に対応することは本校の経営の柱であることを徹底する。 ・相談してよかったと思えるよう、改善に向けて情報を共有し学校として迅速に対応する。 ・研修を実施し相談スキルの向上を目指す。
	3 居場所となる学級および学校づくりの推進	◎学校評価アンケートから学校生活は楽しく充実していると考えられる生徒の割合が高い。 ◎学校評価アンケートからクラスの活動や行事に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 ●学級で話し合い ●校則がわかりにくい ●学習室の利用の在り方	・全教職員が生徒一人ひとりに達成感を持たせるよう、その主体的な活動を支えることを再確認する。 ・集団の中で役割を持たせてやりがいを持たせる指導の実施 ・生徒同士が関わって活動する場面を意識的に設定する。わかる言葉で説明 ・全ての生徒にとって必要な支援を、速やかに実施する。

Ⅲ 豊かな心づくりの推進	1	キャリア在り方生き方教育の推進 ①キャリア在り方生き方教育の着実な実施と体験的な活動を通じ社会的自立に向け、必要な能力と態度を育成する。 ・キャリアの視点での授業 ・SDG'sの周知 ・進路説明会(オンライン) ・職業講話 ・校内職業体験 ・キャリア在り方生き方ノート(パスポート)の活用	◎学校評価アンケートから、社会の中で自立するのに必要な力を身につけるよう意識している生徒が多い。 ◎学校評価アンケートから、挨拶をするように心がけている生徒が多い。 ●SDG'sを取り入れた授業 ●年間を通じたキャリア教育 ●保護者との協働 ●保護者・外部の方への挨拶	・教育活動全般でキャリア生き方教育の視点を持ち意識して取り組む。(SDG'sの視点を持った授業計画) ・進路決選に向け、各学年ごとのキャリア教育のねらいを定めて、一貫した指導を行う。→コロナ禍でも可能な体験や講話等の実施 ・キャリアノートを連携のツールとして、保護者と共通理解で指導を行う。 ・挨拶等社会的マナーについては教職員が良き手本となる。
	2	共生*共育プログラムの活用 ②効果測定を実施し、生徒の変容を的確に捉え、学級経営の改善を図ると共に共感的な人間関係の構築を目指す。 ・効果測定の実施(研究協力校) ・共生*共育プログラム研修 ・学年会での共有とケース検討	◎学校評価アンケートから、学校生活の中で友達とより良い関係を作るようにしている生徒が多い。→一生懸命・仲間の増・今すべきことを考える力 ◎教員アンケートから、全学年で効果測定の結果を生徒理解に生かし、学級や学年経営の改善に努めている。 ●ケース検討の時間の確保 ●効果測定の結果の活用が不十分 ●外部講師による研修の実施	・学年会で効果測定の結果や共生*共育プログラムの効果について協議する時間を確保する。 ・年6時間の共生*共育プログラム実施計画を策定し、必要なスキルを着実に伸ばす指導を行う。 ・外部講師による研修を実施し、効果測定の結果の読み取りや活かし方を学ぶ。(ケース検討への助言も検討)
	3	いじめを許さない心の育成と体制の構築 ③生徒の実態把握に努め、自己肯定感を高める関わりをするとともに変化を見逃さない丁寧な関わりを行う。 ・教育相談期間の設定 ・アンケートの実施 ・Zoom面談や家庭訪問 ・相談内容の共有と迅速な対応 ・コロナ差別防止・人権	◎学校評価アンケートから、悪口を言ったりいじめをせず、友達の良いところを認めることができる生徒の割合が高い。 ◎学校生活アンケートから、先生に自分は理解され、自信をもって活動に取り組めると考える生徒が多い。 ●いじめや不登校への対応のさらなる充実 ●教職員の言葉 ●丁寧に関わる時間の確保 ●教職員間の情報交換の時間	・学校生活アンケートや教育相談の実施の他、日常から生徒の変化を察知し、学校として迅速に対応する。 ・個人で判断せず、必ず報告してチームで考え対応することを徹底する。 ・記録をとること(フォーマットを作り正確に)と経過を追うことを指導の基本とする。 ・コロナ等の人権にかかわる課題について、本人・保護者の困り感に対し関係機関と連携して支える
Ⅳ 地域・保護者との連携	1	地域・保護者と共に取り組む教育活動の推進 ①積極的に学校の取組を発信し、家庭・地域・小学校等との連携を促進することで、一体化して継続性のある教育活動を展開する。 ・学校便り・学級だより・ホームページ・メール配信 ・ためきチャンネル・地域教育会議・ZoomやYouTubeの配信 ・小中連携・学校教育推進会議・PTA運営会議	◎学校評価アンケートから、挨拶を交わす等日常的に地域の人とつながっている考える生徒が多い。 ◎学校評価アンケートから、お便りやHP等で学校からの連絡等必要な情報を知ることができると考えている生徒が多い。 ●学校評価アンケートから、情報発信が十分できていると考える教職員の割合6割程 ●オンライン授業を常に受講できるように	・学校と保護者、地域が協働して子どもを支えること的主旨に基づき、全教職員が日頃から良好な関係づくりに努める。 ・情報を確実に届けるためメール配信の在り方を検討する。 ・休日や時間外の地域行事や会議への参加について、は働き方改革の視点から調整する必要がある。
	2	教育環境の整備 ②生徒の安全を保障するため、防犯や経年劣化に伴う不具合等の早期改善に努める。 ・学校巡回による破損個所の把握と早期修繕 ・所管課との連携 ・体育館の大規模改修(次年度)	◎学校評価アンケートから、学校が安全で心地よい環境づくりに向けて努力していると考えられる生徒と保護者が多い。 ◎教職員アンケートから、日々巡回や掃除の徹底など環境整備に意欲的に取り組んでいる教職員が多い。 ●調理室と理科室のエアコン設置 ●技能教科の道具の劣化 ●校内映像配信の不具合への対応 ●体育館改修による課題改善	・体育館の改修工事に伴う、体育や部活動場所の確保努める。 ・校内画の点検巡回を丁寧に行い、教室等の不具合について迅速に対応し、校舎内外の安全と学びやすい環境づくりに努める。 ・体育館改修の計画の保護者や地域への周知をし、理解を得る必要がある。
	3	健康・安全教育の推進 ③健康で安全に生活するために『新しい生活様式』の定着に努める。学校が安定的に教育活動に専念できる環境を整える。 ・新しい生活様式の定着・教職員による消毒 ・心肺蘇生等研修・性にかかわる講演会・活動方針に沿った部活動の運営・行事や会議等の計画の見直し・避難訓練	◎学校評価アンケートから、毎日の検温、手洗いやうがいを行うなど『新しい生活様式』を実行している生徒が多い。 ◎学校評価アンケートから、部活動に安心して参加できて熱心に取り組んでいる生徒が多い。 ●作業や運動中の安全指導の徹底 ●SNSとの適切な関わり方の研修(生徒・教員) ●部活動場所の不足 ●コロナ禍による体力の低下	・SNSに適切な使用法に関する最新の情報を教職員・保護者・地域の大人が研修する機会を作る。 ・道具の扱いに不慣れな生徒にも安全に活動ができるよう実態に即した、指導計画と声かけを行う。 ・避難所運営に関するルールやマニュアルを再点検し、非常時に適切に行動できるよう備える。

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けて
<p>【良い点】</p> <p>◎わかりやすく面白い授業◎社会へ関心を向ける授業◎コロナ禍でも保護者が子どもの活動を見る機会を作ろうと努めた。◎飛翔祭は時間差で密を避けて実施され、保護者は教室でライブ配信を視聴できた。◎修学旅行や自然教室が実施され、子どもたちの思い出に残る行事となった。◎キャリア教育を工夫して行った。(職業講話・校内での職場体験)◎合唱コンクールをボディーパーカッションによる音楽祭として開催した。◎子ども文化センターも子どもの居場所として活用されている。◎学校教育推進会議を2回開催し、広く意見聴取を行った。</p> <p>【改善を要する点】</p> <p>●消毒に加え、コロナ関連で出勤できない教職員も複数出たことで、負担がさらに大きくなっている。●部活動保護者と顧問との連携●次年度の体育館改修の時期や規模等を保護者や地域にも広報する必要●ためきフェスティバル(地域教育会議主催)が昨年に続き中止になり、先生やPTAと地域が顔を合わせる機会が減り残念●今の中学生の考え方等をリアルに知る機会がない。●コロナ禍での学校運営の大変さを、地域でも支えて協力したい</p>	<p>今年度もコロナ感染症の拡大は続き、生徒や保護者、教職員の安全と安心を第一に学校運営に取り組んできた。感染対策を行った上で学力の補償と豊かな心の育成を目指し、教職員がチームで目標達成に向け邁進してきた。また、一人ひとりを大切にする「支援教育」を核とした学校経営のもと、多様な教育的ニーズに加え、コロナを要因とする不適応にも、オンラインによる指導等で丁寧に対応した。SNSとの適切な関わり等教育公務員としてのモラルについては、次年度以降も校内で周知徹底を図る。アンケートを分析し、取組みの成果と課題を認識して次年度は次の取組を進めていく。</p> <p>■一人ひとりを大切にする学校づくり=支援教育の推進 ・支援会議の充実 ・学習室の効果的な運営(個別の指導計画)</p> <p>■安全で安心できる学校づくりの推進 ・生徒、保護者に寄り添う教育相談の充実 ・SNS研修の実施 ・地域との連携 ・体育館改修工事</p> <p>■豊かな学力が身につく学習活動の推進 ・指導と評価一体化 ・GIGA端末の効果的な活用による指導の充実 ・読書活動の推進</p>